



神奈川支部報

神奈川支部報 第 8 号

発行日：2018年1月1日

発行者：込田伸夫

発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台 2-58 込田方



↑南関東3支部懇親山行（山岳スポーツセンター）

新年のご挨拶

込田伸夫

日本山岳会神奈川支部会員の皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

さて神奈川支部は今年で3年目を迎えますが、この1年を振り返ってみますと、4月から「かながわ山岳誌プロジェクト」が開始されました。記念すべき第一回のプロジェクト山行は、2017年4月陽光麗らかな春の日に湘南平で行われ、頂上の広場には小島烏水と共に日本山岳会設立に尽力した、岡野金次郎の記念碑が私たちを迎えてくれました。私たちはこの5年計画のプロジェクトを支部の中心活動と位置付け、7月と8月を除く毎月第2、第4土曜日に実施しています。会員の皆様におかれましては、神奈川の山の良さを再認識する良い機会となることと思われまますので山行に参加され、合わせて支部会員相互の親睦も深めていただきたいと思います。

10月には埼玉、東京多摩支部との3支部合同懇親山行が神奈川支部主催で丹沢大倉において開催され、支部会員相互の懇親を深めるとともにビジターセンター見学や講演により、丹沢の持つ様々な魅力に改めて感動致しました。11月には静岡支部との合同懇親山行が実施され、青空に映える雪化粧した富士山を見ながらの山行を楽しみ、静岡支部の皆様との交流を深めることができました。さらに会員の提案による山行もいくつか実施され、活発な山行が行われる兆しが見え始めているのは誠に嬉しい限りです。今後も「山を楽しむクラブ」を標榜する支部として会員の皆様から様々なご提案をいただき、様々なレベルの、そして楽しく安全な山行を実施していきたいと考えておりますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

末筆ながら新しい年が神奈川支部会員の皆様にとりまして、素晴らしい1年となりますことを祈念申し上げます。

支部における登山計画書提出と

チェック体制について

込田伸夫

12月に本部の遭難対策委員会から「支部における登山計画とチェック体制について」という文書が送付されました。以下その内容を紹介しますので、会員の皆様におかれましては今後この制度に則って山行を励行していただきたいと思えます(12月の本部理事会決定事項で、詳細は『山』12月号に掲載)。

(1) 当会において当会会員が行う山行については、他の団体などが主催し公的組織へ登山計画書を提出する場合を除き、すべての山行について山行計画書を作成し、遭難対策委員会へ提出すること。

(2) 支部においては、組織内で行うすべての山行(支部主催、個人山行を問わず)の登山計画書を受領し、適切なチェックを行う体制を整える。そしてその計画書、またはその修正された計画書を遭難対策委員会へ提出する。

(3) 支部に所属しない会員の個人山行については、直接遭難対策委員会へ提出すること。

(4) この規定は2017年12月25日より施行する。

文書にはこれまでは平易な山行や日帰り山行において、山行計画書を作成していないケースがあったため、慣れ親しんだ山や簡単な山でも必ず山行計画書を作成、提出すべきとしています。但し神奈川支部の役員会や山行委員会などでも様々な意見が出たように、例えば支部会員が個人山行を急に決めた場合には、役員会で審査する前に山行が行われてしまう事態が発生するなどの問題も出て来ることが予想されます。今後の本部からの具体的な決定内容や、他支部の動向などを注視していきたいと思えます。

以上紹介いたしました、このような流れに

なりましたのも会員の昨年11月の富士山、ならびに今年8月に起きた北海道幌尻岳の死亡事故を受けてのことです。神奈川支部といたしましては、何よりも安全を第一に山行を楽しんで頂きたいと考えておりますので、支部会員皆様のご理解、ご協力を何卒よろしく願います。

山行報告

鍋割山・雨乞岳

10月7日(土)

小田急渋沢駅にて集合後、タクシーにて表丹沢県民の森まで入る。林道歩きを続けた後、ミズヒ沢から鍋割山を目指す。前日の天気予報では、午前中が良くない予報だったが、実際は、日が差し込み、予報とは大違いだった。お蔭で鍋割山頂上へ到着後、登山者が少なかったため、鍋割山荘にて鍋焼きうどんを注文。

鍋割山稜を歩いている時は、雲が湧き、蛭ヶ岳方面は、ピークが隠れてしまっていたが、登山道付近のブナ林や相模湾方面の景色を堪能しながら、登っていく。その後、金冷シから大倉尾根を下る。途中の花立付近では、あちこちに咲くリンドウを、花立山荘前では、人を見ても逃げない鹿(今となっては珍しくなってしまった)を見物することが出来た。

終盤、一般登山道を外れ、雨乞岳に向かう。送電線鉄塔の先で、覚悟を決めて草ヤブに突入するが、5mも進んだら、草ヤブが終わってしまい、いささか拍子抜け。植林帯を進み、雨乞岳の頂上に達した。その後、幸いにも暗くなる前に大倉に到着した。(永井泰樹)

(コースタイム) 渋沢駅 7:30 集合 7:37 出発(タクシー) - 7:53 表丹沢県民の森 8:03 - 8:50 ミズヒ沢 9:03 - 9:30 後沢乗越 9:35 - 10:57 鍋割山 11:47 - 13:02 金冷シ - 13:22 花立山荘 13:31 - 14:13 堀山の家 14:25 - 14:46 駒止茶屋手前の三角点 14:52 - 15:35 大倉高原山の家 15:38 - 16:05 雨乞岳 16:09 - 16:50 大倉バス停 17:35 - (バス) - 17:49 渋沢駅

(参加者) 永井泰樹、田島剛



↑ 鍋割山稜のブナ

南関東三支部懇親山行

丹沢（大倉山岳SC～三ノ塔～牛首）

10月28～29日（土、日）

三支部合同山行は、10月28～29日、丹沢・大倉の神奈川県山岳スポーツセンターをベースに大倉から三ノ塔・二ノ塔を縦走し東丹沢林道の牛首までラウンドする親睦登山を神奈川支部が主催支部として計画した。しかし、当日は季節外れの台風並み低気圧が関東地方を襲い、山行は断念せざるを得なかった。

今回の親睦山行のテーマとして、皆さんが良くご存知の丹沢を再確認していただくという神奈川支部の思いがあり丹沢ビジターセンター見学と丹沢山岳史の講演を計画した。集合は大倉バス停、神奈川国体山岳競技の拠点となり今は公園になっており県立丹沢大倉ビジターセンターもこの公園の中に作られた。事前にお願していたビジターセンターの学芸員から、丹沢山塊の成り立ちから植生、野生動物、丹沢の植物の固有種の説明を受け、参加メンバーは学芸員に質問したり、情報収集などをおこなった。

水無川の上に作られた風の釣り橋を渡り、この日の宿舎である山岳スポーツセンターに到着。丹沢を良く知ってもらうためのもうひとつの企画として「丹沢資料保存会」永森会長（神奈川支部会員）から「命はぐくむ丹沢」と題した講演を行った。丹沢の今昔を写真で示しダムによる村落の消滅や山間部の祭りを説明。また、山岳信仰が丹沢の山々と住民を深くつないでいることも写真で見せられた。小島烏水の横浜商業学校から横浜正金銀行時代など、日本のアルピニズムに残る神奈川山岳人の足跡など興味深い逸話が伺えた。

夜の懇親会は三支部長のスピーチに始まり楽しく歓談した。途中から「山の歌」の合唱となりスポーツセンターが山小屋の様相となる。各支部から地元のお酒が提供され、当支部は「丹沢山吟醸」、東京は「御岳」を供出した。屋久島の焼酎「三岳」、ワインなどお酒はかなり楽しめる量が出された。食事は青木・植木両幹事の手配で地元から配達され、味やボリュームなど十分なものが出され参加者に堪能してもらった。

天候不良で山に入ることは叶わなかったが、三支部の会員には楽しんで頂けた交流会であった。（早川正志）

（コースタイム）台風のため、三ノ塔縦走登山は中止した。

（参加者）

東京多摩支部；河野悠二、岡義雄、富澤克禮、石塚嘉一、長澤登、吉田 敬、石井秀典、竹中彰、山本憲一

埼玉支部；古川史典、宮川美知子、青木正
神奈川支部；込田伸夫、森武昭、砂田定夫、井村英明、落合正治、植木貞一郎、廣岡正敏、青木まゆみ、中山茂樹、日出平洋太郎、永森
湯坂道

11月11日（土）

湯本からのバスを湯坂道入口で降り、道標に従ってハイキングコースに入る。広々した道。鷹巣山は三角点なし。浅間山三角点（三等）は欠けており、道端にある。湯坂山（三等）は藪の中で、入口にテープがありかすかな踏み跡が通じている。第二城山という木札あり。石畳の道が現れ、湯坂城址まで来ると湯本は近い。（長島泰博）

（コースタイム）湯坂道入口 10：10－10：25
鷹巣山 10：30－11：00 浅間山 11：13－12：28
湯坂山－13：20 湯坂城址 13：30－14：00 箱根湯本

（参加者）稲垣哲郎、小松忍、高井紀栄、田島剛、長島泰博、葉上徹郎、舟根章、森静子、森武昭、臼田毅弘（非支部会員）



↑ 浅間山にて

菰釣山—浅瀬橋

11月25日(土)

三ヶ瀬川西沢林道ゲートを出発し、ブナ沢を詰めるとブナ沢乗越に到着する。ここから菰釣避難小屋を通過し、笹やブナの林を行くと、菰釣山(1,379m)の頂上に至る。西側に山中湖を抱いた雄大な富士山が、どんつと、構えている。雲一つない晴天の中、360度の大展望が広がる。途中、相模湾や大島が見えるのには驚いた。本日は、菰釣山の南尾根を丹沢湖西岸の浅瀬橋まで辿る。このコースは、一切道標がなく地図とコンパスのみに頼ることをするバリエーションルートである。まず、菰釣山の南(1,348m)の三等三角点を探す。次に大木の頂上を目指す。比較的笹ヤブの少ない冬枯れの季節を気持ち良く進む。



↑ 大木にて

ツガやブナの巨木を仰ぎながら、紅葉の美しい静かな西丹沢の秘境に行く。支尾根に迷い込まないよう、慎重にルートファインディングをする。やっと織戸峠に到着し昼食となる。椿丸まで登り、東に進路を取り尾根を見極め、どうに

か迷うことなく浅瀬橋にたどり着いた。読図による山行の達成感を味わうことができ大満足であった。(田島剛)

(コースタイム)西沢林道ゲート 8:37 出発。ブナ沢乗越 9:11—菰釣山 9:50—三等三角点

10:07—大木 10:41—織戸峠 11:50—椿丸 12:43—浅瀬橋 14:37 到着。(休憩時間を含む)

(参加者) 廣岡正敏、永井泰樹、田島剛(サポート) 森武昭

鎌倉 1

12月9日(土)

鎌倉駅西口に10名が9時集合、鎌倉市役所前から銭洗弁天方向に歩き佐助稲荷神社の急な坂を上がると大仏ハイキングコースの尾根に取り付いた。ここから目指す桔梗山は鎌倉市の地図にもピークのマークがなく踏査に時間がかかるかと予定していたが、地元の愛好家の道標をハイキングコース途中で発見し、草を掻き分け頂上を踏む。頂上にも手作りの山名プレートがあるのみで三角点はないピークだった。(第1峰)

源氏山公園の源頼朝像を横に見て、源氏山山頂、と書いてある小ピークを踏む。(第2峰)

源氏山公園から浄明寺裏の下山ルートを北鎌倉まで降り、踏み跡の少ない道を進み六国見山頂上到着。山頂から江ノ島、丹沢、先ほど通った源氏山まで一望できる。来た道を明月谷に降り、鎌倉アルプスの急な登りを開始。建長寺の裏山は半僧坊と呼ばれ展望台から下の伽藍が一望できた。(第三峰)

鎌倉アルプスはハイカーが多く、小さな子供をつれた親子3代のハイカーも見られた。鎌倉ゴルフクラブの裏山が大平山でハイカーがシートを広げ休憩する絶好の場所でもある。(第4峰)

次の天台山は鎌倉市の地図にピーク(141m)表記あるも、天園瑞泉寺ハイキングコースにはピークを示す道標がない。GPSで緯度・経度のデータからメインルート脇にある薄い踏み跡をトレースして頂上を発見。手作りのプレートと三角点を確認した。(第5峰)

大平山、天台山とピークを踏み貝吹地蔵を過ぎた分岐から、踏み跡の少ない滑川源流ルートに入る。僅かな踏み後を注意深く歩き、丸太の一本橋の下を徒渉し対岸の岸壁沿いをすすむ。岩盤から水がしみ出し、糸のような流れから

徐々に小川となる。滑め滝の下流を渡渉し、笹林の湿地を抜け一般道に出会い、瑞泉寺の稜線を下る。

帰路は鎌倉宮から鶴岡八幡宮を抜け鎌倉駅帰着。鶴岡八幡宮から振り返って見上げれば、北の稜線に通過した鎌倉アルプスの十王岩が見られた。(早川正志)
コースタイム； 9：15 鎌倉駅～桔梗山 (61)～源氏山 (76)～浄智寺～12：00(昼食)六国見山 (281)～鎌倉アルプス～大平山 (39)～天台山 (159)～滑川源流・渡渉-十二所～瑞泉寺～鎌倉宮～鶴岡八幡宮～16：45 鎌倉駅

参加者；込田信夫、森武昭、砂田定夫、田島剛、高井紀栄、稲垣哲郎、富岡一郎、舟根章、葉上徹郎、早川正志(TL) 記 計 10 名

役員会報告

10 月役員会

日時：10 月 19 日 (木) 19：00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・会員の異動について
- ・平成 29 年度会計中間報告
- ・山行報告
- ・全国支部合同会議
- ・神奈川新聞に山岳誌プロジェクト掲載

審議事項

- ・南関東 3 支部懇親山行について
- ・山行計画
日影山、湯坂道
- ・静岡支部との懇親山行 11/18～19
- ・山行委員会と忘年会の開催について
- ・その他

11 月役員会

日時：11 月 16 日 (木) 19:00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・山行報告

南関東 3 支部懇親山行、湯坂道
日影山の中止

審議事項

- ・静岡支部との交流会について
- ・山行計画について
- ・支部山行と準支部山行の定義について
- ・包括保険の運用について
- ・その他

12 月役員会

日時：12 月 21 日 (木) 19:00

場所：神奈川工科大学 横浜事務所

報告事項

- ・山行報告
菰釣山、鎌倉
- ・年次晩餐会
- ・山行委員会
参加 18 名

審議事項

- ・山行計画について
日影山、厚木白山
- ・かながわ山岳誌 P の今後の予定
- ・山行の定義及び計画書の提出について
- ・平成 30 年度支部事業計画・予算
- ・来年度の支部総会

支部会員動静

入会

A0024 三澤 彩花

今後の予定

赤倉スキー・スノボ山行【受付終了】

日時：2018 年 3 月 10 日 (土)～11 日 (日)

場所：妙高赤倉スキー場

役員会

1 月 18 日 (木) 19 時～

2 月 15 日 (木) 19 時～

3 月 15 日 (木) 19 時～

場所は神奈川工科大学横浜事務所

あとがき

寒さも少しづつ厳しくなってきました。週末の早起きもつらくなり、最近は遅めに起きて、自宅近くの里山歩きが多くなりました。人も少なく寂しい感じですが、個人的には晴れの日が多く、空気も澄んでいる冬の山が好きです。(友)

発行：日本山岳会神奈川支部 支部長：込田伸夫

編集者：植木貞一郎、多田友行、長島泰博

平成 30 年 1 月 1 日

次回は 4 月 1 日発行予定